QRコードは確かな保冷剤の証（あかし）

消費者に安全・安心を提供

保冷剤業界お墨付きのQRコードが付された保冷剤が登場した。それは日本保冷剤工業会（鳥越繁一会長、加盟13社、略称JCMA）が認定した保冷剤だ。それも工業会の自主基準をクリアした保冷剤にだけ表示（印刷）できるというもの。その強度、耐候性、保冷能力、品質保持期間（最低1年間）の厳しい4項目をクリアするとJCMAのロゴ入りQRコード（各社別）が表示できる。例えば、誤飲誤食した場合、携帯電話からQRコードを読み取ると、その保冷剤を製造した工業会加盟のメーカーに直接アクセスでき、そこから連絡先等が表示される。さらに工業会制作の「保冷剤Q&A」にもアクセスできる。消費者・生活者が安全に安心して使用できる商品の提案、それがまず保冷剤で登場した。これはまさに画期的な事件だ。（包装タイムス編集部）

メーカー有志で工業会設立へ

洋菓子の箱を開けると、そこには透明なゲルをフィルムで包んだものが入っている。その正体とは、食品によっては重要なファクターとなる温度をキープし、また生鮮加工品の鮮度を保たせるという保冷剤のこと。

この高機能副資材である保冷剤は、「食べられません」という表示をしているが、ピロー包装の形状で粘体食品のような触感から、誤って口にしてしまうという事故が毎月十数件ほど起きている。多くは児童や幼児によるものだが、ごくまれに高齢者が誤飲誤食をしてしまったというケースもある。

また、保冷剤の包装フィルムが破袋して手に付着した、あるいはケーキやアイスクリームに付着してしまったとして、それを購入した店舗に問い合わせてくることも多い。

氷やドライアイスの代替として、ここ十数年間、急激に市場が拡大してきた保冷剤。食品を運ぶ際に水になって溶け出してしまう氷では、用途は極めて限定される。気体になってしまうドライアイスも、その気体である炭酸ガスが食材や生クリームの気泡に溶け込んで、食味や食感を変えてしまうことから、ケーキ・洋菓子店を中心に、あるいはカニなどを扱う土産店でもドライアイスから保冷剤に包装仕様を変更してきたのが、特に2000年以降からだ。

保冷剤が消費者・生活者の手にすることが増えていくことと相まって、前述の誤飲誤食のトラブルも増え続けてきた。

消費者の苦情や安全性の確認は、まずケーキ・洋菓子店や土産物店に寄せられる。時には消費者生活センターや保健所にも及ぶことも。しかし、最終的には保冷剤に関する内容物の安全性の確認や苦情への回答はメーカーが対応することになる。

実は、保冷剤は冷やして使えるという機能から、家庭では冷凍庫に冷やして子どもの急な発熱や、運動後のアイシングにも使っている場合が意外に多い。そのため、誤飲誤食以外での問い合わせもある。冷凍段階で破袋したのに凍っていたので気付かず、子どもの額に置いていたら溶け出した内容物が子どもの目に入ってしまった、といったケースなどだ。

誤飲誤食、さらには保冷剤の用途以外の使われ方で消費者・生活者がトラブルについて、業界として真摯に受け止めながら、解決策を見出していこうという動きが6、7年前から業界で燻り始めていた。

消費者・生活者が、まず安全に、そして安心して使える保冷剤。そのための自主基準作り。また誤飲誤食といった消費者・生活者のトラブルに業界が問題解決のために直接対応できるしくみなどなど、国内の保冷剤メーカー有志の担当者レベルで、定期的会合を設けて意見交換を繰り返してきた。その第一歩として、業界団体設立の準備会を2006年（平成18年）に立ち上げた。

日本保冷剤工業会を設立した会員有志

世界最良の保冷剤を目指す

冒頭に述べた「透明なゲルをフィルムで包んだものが入っている」という、いわゆる1%の高分子凝集剤（吸水性ポリマー）に99%の水を含ませた保冷剤を製造する国内メーカーは、専業メーカーや兼業メーカーを含め、およそ100社を数える。このワンウェイタイプの保冷剤マーケットは40億～50億円規模。

ここに、消費者の目線から、安全にしてかつ安心して使える保冷剤を、世に送り出していこうと集ったメーカーは、業界団体設立の準備会立ち上げから2年後の08年（平成20年）6月、正式に「日本保冷剤工業会」として発足させた。工業会加盟会社で国内シェア6～7割にもなる。初代会長には山川覚氏（三重化学工業社長）が就任した。

山川氏は会長就任時に本紙に次のように語った。

「誤飲・誤食では、その対策の一つとして、工業会としては商品に製造元を表示すること、『食べないでください』といった注意書きを入れるといった自主規制をしていく、またそれを工業会の自主規格として盛り込んでいくことで合意。自主規格では品質の向上に努めること、また高品質の商品を提供するために、耐圧強度や対候性、商品の外観、内容物の安全性に関する基準作りも同時に進めていく。

基準をクリアした保冷剤については、工業会の品質保証の認定マークを付けていく」（本紙2010年2月8日号）と述べていた。

山川前会長の意思を受け継ぐかたちで、10年（平成22年）6月、工業会会長に就任したのが鳥越現会長（鳥繁産業社長）。

鳥越会長も「フィルムのシール強度もJIS基準に準拠すること。さらには耐候性や保冷剤そのものの保冷能力についても基準を設ける」（本紙2010年7月26日号）として工業会加盟会社の製品データを収集、製品で確認を進めながら、まず工業会としての品質管理を第一に努めてきた。

そして、遂に携帯電話から各社それぞれにアクセスできる2次元コード（QRコード）の共通図案をつくり上げた。

「保冷剤は主婦が目にし、手にすることが多いし、主婦の間では携帯電話はほぼ普及している。もし、子どもが誤飲誤食した場合でも認定マーク、つまりQRコードから製造者名や電話番号が分かり、誤飲した際の処置方法も携帯画面から見られる」（同）と述べる鳥越会長。その目線の先は「保冷剤の安全性を追求していくため、原料メーカーやフィルムメーカー、充填機メーカーとの情報交換や勉強会も必要」（同）との認識で、また行政（経済産業省、消費者庁）の助言や協力を得ながら、日本で（おそらく世界で）最も品質と安全に優れた保冷剤創りを目指すということだ。

QRコードから各メーカーへアクセス（イメージ）

目的に応じた高機能保冷剤を提供いたします。
工業会認定マーク
株式会社 アイスジャパン
北海道

鮮度・温度ソリューションを提案します!
日本保冷剤工業会
会長　鳥越　繁一
会員　13社
Japan Coolant Materials Association JCMA 日本保冷剤工業会
温度と鮮度を管理する工業会商品
QRコードから各社にアクセス

最適な保冷システムのご提案を致します。
工業会認定マーク
株式会社 イノアックパッケージ
愛　知

未来に向けて価値を創造する感動企業
工業会認定マーク
株式会社 トライ・カンパニー
静　岡

ISO9001認定取得工場で、安心をお届けします。
工業会認定マーク
株式会社 エイト
富　山

温度管理ソリューションを提案するメーカー
工業会認定マーク
玉井化成株式会社
北海道

品質保持のサポーター
工業会認定マーク
株式会社 博洋
広　島

たかが保冷剤、されど保冷剤。
工業会認定マーク
株式会社 ダイセロックス
広　島

品質・用途・コストに応じた品揃え!!
工業会認定マーク
三重化学工業株式会社
三　重

保冷剤包装システム化し環境保冷®を創造
工業会認定マーク
株式会社 タイヘイ産商
三　重

新鮮さをそのままに!保冷剤ファインパック
工業会認定マーク
株式会社 鳥繁産業
大　分

あらゆる物流ニーズに新提案!
工業会認定マーク
九州アプトン株式会社
大　分

商品の秘める力を信じ、信頼を全国に
工業会認定マーク
株式会社 筑後物産
福　岡

全ての生活シーンで環境との融合をめざして
工業会認定マーク
ダイアックス株式会社
福　岡